

彼

4組 台湾 林 孝親

その彼については私と私の仲のよい友達との
ストーリーから話します。三年前、私は空港
で偶然、可愛い女の子と知り合いました。そ
の時、彼女は日本に飛んで、私はカナダへ向
かいました。あんまり時がなが、たので、私
達はLンモを交換しました。その後、私は
彼女に彼女の家の遊びに招待されました。カ
ナダから帰国した後で、私が約束通り、彼女の
家を訪ねた時、私は初めて彼と知り合いま
した。今思い返すと、最初に出会った時、私
は彼に言葉では言い表わせないような印象を
受けました。これは何と言った方がいいのでし
ょうか。

その後も、2回、3回と彼女と一緒に遊ん
だ時にはいつも彼もいました。実はその時の
私はとても嬉しが、たのです。一度は無邪気
な想像をして、これから私達にはどのような変

化が訪れるのだろうかなどと考えました。しかし、その様な夢は長続きしませんでした。私は彼に彼女がいることを知ったのです。どうして、私には関係ないことだというのに、私は突然喪失感の様なものを感じたのです。私は神様にかたかわられているのでしょうか。気持ちはずまるでジェットコースターに乗ったように上か、たり、下か、たり、ぐるぐると回、たり…。早くこの悪夢から覚めてほしいと願いました。

私は以前から彼のことを好きだったが、たのかもしれない。けれども私自身は気づいていませんでした。彼が喜んでいる時、私も嬉しくって、彼が悲しい時、私も一緒にこまいためました。それは自分でも意識していないような「兆候」だ、たと言えるでしょう。それからしばらく、彼はとても忙しかっただけですが、彼は時々私を食事にとり、てくれました。私は毎回彼に会えるのを楽しみにしていて、その時は精一杯おしゃべりをして会いに行きました。

②

た。このようにして三年を過ごしてきたので、
これが私達の間の習慣になりました。私達
はお互いの出会いを大切にしています。
正直い、て彼が私の作文の題材になるとは
考えていませんでした。本当に彼のことが好
まぬのがもしれません。本気で人を好きにな
る時の気持ちはこのようにあつめる辛酸苦辣
を味わうものなかと感じています。私は自
分の気持ちに臆病になつてしまひ、とても慎
重になつています。でもかゝる、私はまだ彼の
気持ちをたしかめることはできません。私達
の未来の行方はまだ分かりませんが、とにかく
この物語を続けたいと思います。もしかし
たら、近い将来、私の思い描いている幸せな
結末へと発展させることができるかもしれま
せん。その時の二人はどんな風景を見ている
のでしよう。「ねえ、私はあなたが大好きな
人ですよ！」